

NPO 法人ハートセービングプロジェクト

令和3年度年次レポート

第 1 4 期 年次総会資料

議事

- 議題 1 令和 3 年度事業報告
- 議題 2 令和 3 年度活動計算書報告
- 議題 3 令和 4 年度事業計画
- 議題 4 令和 4 年度活動予算

令和 4 年 4 月 10 日（日曜日） 午後 2 時から午後 3 時
会場 NPO 法人ハートセービングプロジェクト事務局
住所 東京都世田谷区下馬1丁目 29-5-102

（オンラインアプリケーション「Zoom」を利用したビデオ総会とします）



はじめに

理事長
富田 英

2021年6月からハートセービングプロジェクトの理事長をおおせつかりましたが、あいにくのCOVID-19パンデミックで渡航制限が続くなかの、新たな活動形態を模索する年となりました。学会も会議もリモートが幅広く導入され、オンライン飲み会、オンライン診療と多方面でオンラインが花盛りです。医療の分野でも診断にはAI、外科治療やカテーテル治療にはロボット技術の開発が進み、欧米ではRobotic-assisted冠動脈インターベンションがすでに導入されているようです。先天性心疾患は対象年齢も疾患も多様で、このような技術の導入は一朝一夕には行かないだろうな、と思いつつもハード、ソフトの進歩を見ていると、匠の技もいずれはこのような技術にとってかわられるのかも知れないと思ったりしています。

10年後でマウス、スティック、アームなどを操作して、モンゴルの患者さんの治療や技術指導ができる日がきつとくるような気がしています。これはこれでどこにいても、いつでも最先端の医療を受けられるという素晴らしい進歩ではありますが、終わった後に皆でトクトイがないのは、一抹の寂しさも。

いましばらく、私が理事長である間はIn-personの技術指導が必要な時代は続くと思いますので、今年の末一昨年くらいには国境が相互に開かれることを願っています。一方、今年は、Zoomを利用した母子センターカテ室との技術指導、3回のJAPAN MONGOLIA Pediatric Cardiology Conferenceなどを行ってまいりました。In-personの活動が再開されたのちも、これを補完する活動形態として、今後も充実を図ることができればと考えております。

オミクロン株流行の先がまだ見えない中、当面はオンラインでのカンファレンスを中心とした活動にならざるを得ないと思います。しかし、基礎的知識の伝達も重要ですので、In-personでの活動再開のための地固めとして今後も取り組んでまいります。

令和4年3月

令和3年度事業報告資料

－令和3年度実施の各事業の内容と成果－

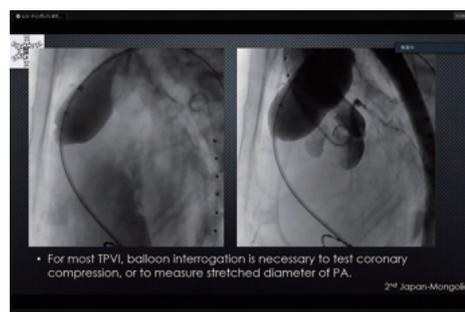
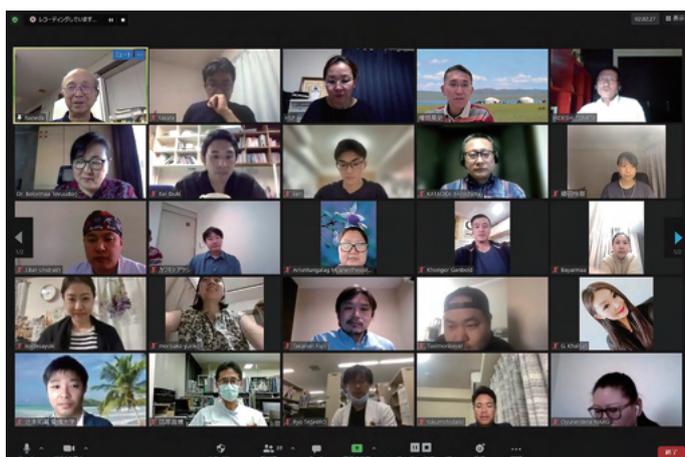
1. 渡航治療支援事業

ハートセービングプロジェクト主催の学会の開催

コロナ禍でモンゴルへ赴くことが叶わない中、現地の医療関係者と日本国内のハートセービングプロジェクトの活動参加者との共同活動として、本年は年に3回の日本モンゴル小児循環器学会をオンラインで開催しました。これはNPO法人ハートセービングプロジェクトの主催となるもので、各回のテーマに沿ってモンゴル側参加者の発表とそれに対する日本側からの指導、各回のトピックに関する一般講演、特別講演がありました。理事のみならず、関係各所のみならずにはご多忙の中を長時間の準備をしていただきありがとうございました。また、会員の皆様もご視聴いただき、ありがとうございました。令和4年もオンラインによる学会の開催は継続してまいりたいと存じます。今後も、みなさまふるってご参加いただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

開催日時 参加人数	テーマ	おもな内容
2021年5月15日(土) 18時～20時 40名	大動脈縮窄	●モンゴルにおける症例の紹介 ボロルマー、バヤルマー、ナランツァツラル、ウンドラル、バトウンドラル、ワンチンドルジ (NCMCH) ●「CoAカテーテルインターベンションについての講演」河本敦、檜垣高史、高田秀実
2021年9月23日(木) 19時～20時半 27名	肺動脈弁	●モンゴルにおける症例の紹介 ムンフジン、バヤルマー、ボロルマー、ナランツァツラル、ウンドラル、バトウンドラル、ワンチンドルジ (NCMCH) ●特別講演「日本における経カテーテル肺動脈弁移植の現状と今後」理事長 富田英 (昭和大学特任教授 小児循環器・成人先天性心疾患センター長)
2022年1月27日(日) 19時～20時半 48名	心臓CTおよび心臓MRI	●モンゴルにおける症例の紹介 ムンフジン、ボロルマー、ナランツァツラル、ウンドラル、バトウンドラル、ワンチンドルジ (NCMCH) ●「位相差cMRIによりシミュレートできるASDの経カテーテル閉鎖の適応症」加藤真理子、大山伸雄、藤井隆成、長岡孝太、石井瑤子、山岡大志郎、清水 武、喜瀬広亮、富田英 ●特別講演「小児心臓CTの進歩」山本雄太、田邊 裕貴、城戸 輝仁、高田秀実、檜垣高史 (愛媛大学大学院医学系研究科)

(下) 第1回学会の参加者



(上) 第2回学会 特別講演から


NPO HEART SAVING PROJECT
 20th anniversary

The 3rd Japan - Mongolia Pediatric Cardiology Conference
Topic: Cardiac CT & MRI
Date: January 27th Thursday, 2022
19:30-21:00(JP), 18:30-20:00(UB)
 Virtual Venue : ZOOM

Chairman: Noriyuki Haneda & Hideshi Tomita

① Case presentation from Mongolia
 T. Bolormaa, E. Narantsatsaral, R. Munkhjin, B. Undral, J. Bat-undrakh, S. Vanchindorj, et al
 National Center for Maternal and Child Health, Mongolia
<https://us02b.zoom.us/j/8681474176?pwd=S29SVmNmMjQwY2x0OjZlc0k4VlYmZzZGZlOT09>
 Meeting ID: 868 147 4176
 パスワード: HSP2021

② Phase Contrast cMR can Simulate Indication for Transcatheter Closure of ASD
 Mariko Kato, Nobuo Oyama, Takanari Fujii, Kota Nagaoka, Yoko Ishii, Daishiro Yamaoka, Takeshi Shimizu, Hiroaki Kise, Hideshi Tomita
 Pediatric Heart Disease and Adult Congenital Heart Disease Center, Showa University Hospital, Japan

③: Special lecture: Advances in pediatric cardiac CT
 Yuta Yamamoto, Yuki Tanabe, Teruhito Kido and Hidemi Takata, Takashi Higaki
 Department of Radiology and Pediatric Cardiology Ehime University Graduate School of Medicine, Japan

Non-Profit Organization HEART SAVING PROJECT
 Shimouma 1-29-5, Setagaya, Tokyo, JAPAN
 Tel: 03-3487-9006 Fax: 03-3487-6024
 Mail: npo@heartsavingproject.com URL: <https://heartsaving.org/>
 Secretariat: Altantuya B, Higaki T

(上) 2022年1月27日開催の学会告知資料



2. オンラインによる各会議

令和3年度社員総会がオンラインで開かれました

令和3年度 第13期社員総会」を2021年4月18日(日)午後2時からオンラインシステムを利用して開催いたしました。今回で2回目となるオンラインでの総会でしたが、それぞれのご自宅や職場から参加できるため、この度も遠方の会員の方がご参加いただけました。久しぶりに顔を合わせる方々が多く、総会終了後は時間の許す限りみなさま方と近況報告をし合う和やかな催しとなりました。



(上と左下) 2021年4月18日(日曜日)に開催された第13期オンライン社員総会の様子

活動開始20周年記念のオンラインイベントを開催しました

2021年10月3日(日)午後2時から約2時間にわたり、オンライン上で日本とモンゴルをつなぎ、ハートセービングプロジェクト活動開始20周年記念イベントを開催し、参加者60名という盛大な会となりました。当日の式次第は次の通りです。

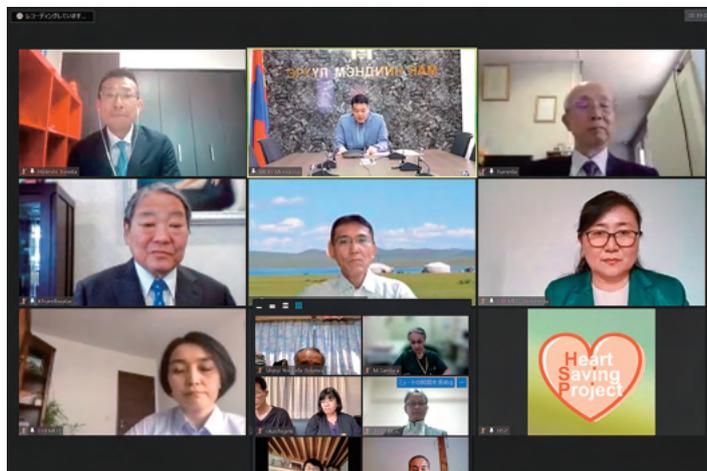
式次第

1. 開会のご挨拶(理事長 富田 英)
2. 祝辞(モンゴル国保健大臣 C.エンフボルド)
3. 祝辞(前モンゴル国大統領 Kh.バートルガ)
4. 祝辞(モンゴル国立母子保健センター総長・教授 Sh.アルタントーヤ)
5. 祝辞(前駐日モンゴル国特命全権大使 Kh.フレルバートル)
6. 祝辞(モンゴル国立母子保健センター子ども病院院長・教授 T.ポロルマー)
7. 馬頭琴演奏(モンゴル国立馬頭琴楽団 Sh.ボルドバートル)
8. ハートセービングプロジェクト20年の活動総括(永世理事長 羽根田紀幸)
9. ハートセービングプロジェクト 医療活動の今後の目標(副理事長 檜垣高史)
10. ご挨拶(治療を受けられた患者さん代表ドルノド県 PDA28mm B. サランゲレル)
11. ご挨拶(明美ちゃん基金により日本で治療を受けられた患者さん代表 ウランバートル市 S. ツェルメグ)
12. ご挨拶(治療を受けられた患者さん代表 バヤンウルギー県 CoA E. アイスルタン)
13. ご挨拶(治療を受けられた患者さん代表 ウランバートル市 PDA H. ソヨンボエルデネー)
14. 祝辞(第70代横綱 日馬富士公平)
15. 閉会のご挨拶(事務局長 宇佐美博幸)

このオンラインイベントの企画・進行はハートセービングプロジェクトをモンゴルで支えているZurkh Khamgaalakh Tusulのみなさんによるものでした。過去に治療を受けられたお子さんからのビデオレターは、それぞれの親御さんと連絡をとってスマートフォンなどで撮影した動画をお送りいただき、当日用に編集したものです。この日に発表された羽根田紀幸先生の講演は公式サイトにアップしました。過去に治療を受けられたお子さんのビデオレターは、近日中にハートセービングプロジェクトの公式サイトにアップする予定です。



(上) 2001年10月の初のモンゴルでの活動の際のモンゴルの医師たちとの集合写真



(右) 当日の参加者の一部（上段の真ん中はC.エンフォールド保健大臣、中段の左は元駐日モンゴル国全権大使フレルバータル閣下、下段の左下は国立母子保健センターのSh.アルタントーヤ総長）



治療を受けた患者さん方からビデオメッセージが届きました。

(左上) アイスルタンさん(バヤンウルギー県、CoA、現在4歳)

(右上) サランゲレルさん(黒に赤の模様のデールの女性、ドルノド県、PDA28mm、現在26歳)

(左下) ソヨンボエルデネさん(写真中の右の少年、ウランバートル市、PS、3歳)

(右下) ツェルメグさん(ハートセービングプロジェクトで診断後、産経明美ちゃん基金へ申請し日本で外科治療を受けた。現在8歳)

3. 広報事業

エドワーズライフサイエンス基金様 2021年度アニュアルレポートのトップページで紹介されました



長年にわたってこの活動をご支援くださっているエドワーズライフサイエンス基金様(米国カリフォルニア州アーバイン)の2021年活動レポートのトップページでハートセービングプロジェクトが掲載されました。このコロナ禍で現実に渡航できない中、オンラインでモンゴルとつないで治療の指導をしている様子を写真と解説で紹介していただいています。エドワーズライフサイエンス基金様からはモンゴルの地方検診費用のご支援をいただいておりますが、令和元年度に助成いただいた1,603,350円はそのままモンゴル地方検診の再開までお預かりしたままとなっています。

(左上) Edwards Lifesciences 2021 Global Corporate Giving Reportより

4. 救急車寄贈事業

福井県大野市からの救急車がモンゴル・ゴビアルタイ県総合病院に寄贈されました

地方自治体から中古救急車をモンゴルの各病院へ寄贈するこちらのプロジェクトは2012年から始まり、令和3年で9年目となります。通常ですと各地方自治体で贈呈式が開かれますが、コロナ禍が続く令和3年の今回はオンラインでの式典が開催されました。2021年5月18日(火曜日)、救急車提供主の福井県大野市から石山志保市長、大野市消防局の藤田様、当団体からは羽根田紀幸永世理事長、仲介者の横綱日馬富士公平氏、事務局トーヤがオンライン出席し、役30分の和やかなイベントとなりました。

こちらの救急車は海上輸送～陸送を経て今回の寄贈先であるゴビアルタイ県立総合病院に無事到着し、2021年11月12日(金曜日)、横綱日馬富士公平氏から同病院のメンデサイハン院長へ引き渡し完了しました。病院の救急スタッフ、救急車の運転手の方はこの救急車に搭載されている心電図、血圧計といった設備の充実度に驚くと同時に大変喜んでいました。横綱からは同病院に個人的に人工呼吸器1台も併せて寄贈したとのことでした。



(上) 大野市のオンライン救急車贈呈式。左上：羽根田永世理事長 右上：石山志保大野市長 下：横綱日馬富士公平氏



(上) ゴビアルタイ県立総合病院前にて、大野市の救急車の横に並ぶ病院の救急スタッフ



(上) 大野市の救急車



(上) メンデサイハン院長(左)と横綱日馬富士公平氏

5. 教育事業

令和3年度も新型コロナウイルスのためモンゴルから学会参加のために来日することは叶いませんでした

令和3年度もご寄付をありがとうございました

令和3年度にご寄附をいただきました皆様は以下の通りです(アイウエオ順)。この度もありがとうございました。新型コロナウイルスの影響により現地に赴いて活動することが叶いませんでしたが、令和4年の後半ごろには再開できるよう期待しております。

足立 稔 様 / 医療法人いつかクリニック 様 / 伊藤 新平 様 / 今田 博巳 様 / 今村 清也 様 /
江口内科医院 様 / 江角 法明 様 / 江原 英治 様 / 愛媛とモンゴル親善・友好の会 様 /
株式会社エムティサービス様 / おおしろ小児科 様 / 岡 茂樹 様・典子 様 / 岡見 節子 様 /
医療法人岡本耳鼻咽喉科小児科 様 / 岡 洋一郎 様 / 片岡 功一 様 / 片山 望 様 / 賀屋小児科 様 /
からすやま小児科 様 / 河田 政明様 / 河野 仁志 様 / 菊池 清 様 / 岸田 憲二 様 / 喜瀬 広亮 様 /
北村内科クリニック 様 / 木村 正人 様 / 駿馬 大哲 様 / 郷原 博 様 / 小林 綾女 様 / 小林 百合雄
様 / 瀬口 正史 様 / 瀬島 斉 様 / 瀬戸 嗣郎 様 / 曾田 一郎 様 / 高橋 良昌 様 / 竹谷 健 様 /
多田 尚克 様 / 田中 慎一郎 様 / 田中 新亮 様 / 谷口 彩音 様 / 田原 昌博 様 /
玉名泌尿器科クリニック 様 / つむらファミリークリニックくみ小児科 様 / 富田 英 様 / 富田 豊 様 /
外山産業株式会社 様 / 豊多摩通運 株式会社 様 / 長岡 三郎 様 / 中村 章 様 / 西川 望 様 /
西村 新吉 様 / 橋本 委久子 様 / 羽根田 紀幸 様 / 檜垣 高史 様 / 福代 明正 様 / 福間 利行 様 /
藤井 園子 様 / 藤原 卓 様 / 藤原 朋広 様 / 藤原 紀男 様 / Byannemekh Altantuya 様 /
医療法人古瀬医院 様 / 医療法人北陽クリニック 様 / ぼよぼよクリニック 様 /
医療法人ますたに小児科医院 様 / 松井 修一 様 / 松本 孝文 様 / 宮脇 玲子 様 / 村上 秀子 様 /
森田 紘基 様 / 森山 整 様 / 山下 賢治 様 / 山田 修 様 / 横内 信弘 様 / 和田 典子 様 /
渡部 一郎 様

(参考) 2022年のモンゴルの概況

フレルスフ大統領

2021年6月の大統領選挙の結果、任期満了となって退任されたKh.バートルガ第5代大統領の後任としてU. フレルスフ大統領が就任されました。

チンギス・ハーン国際空港はすでに稼働中です

2021年7月4日、ウランバートル市中心部から約50キロの距離のトゥブ県にチンギスハーン国際空港が開港しました。この日の最初のフライトはウランバートル・成田間でした。次にハートセービングプロジェクトがモンゴルへ向かう際には、こちらに降り立つこととなります。

アエロ・モンゴリアが2022年1月から成田・ウランバートル間で就航開始

これまでモンゴルへの直行便はミアット・モンゴル航空のみでしたが、2022年からはアエロ・モンゴリアが加わりました。アエロ・モンゴリア(MO・MNG)は成田空港第1ターミナル北ウイングFカウンター、ミアットモンゴル航空(OM・MGL)は第2ターミナルIカウンターです。

モンゴル国立母子保健センター 小児心臓血管外科稼働に向けて

モンゴル国立母子保健センターではかねてより小児心臓血管外科設立に向けて準備を始めており、2021年9月30日、院内に人工心肺装置、磁気共鳴画像診断装置(MRI)、コンピュータ断層診断装置(CT)が設置されました。

2022年は日本・モンゴル外交樹立50周年です

1972年2月24日に日本・モンゴル間で外交関係が樹立してから2022年で50年となる節目を迎えます。モンゴル国営テレビではこれを記念して、この50年間の外交に関係した人物を各回ごとに取り上げる特集番組の放送が始まっています。日本国外務省では、2022年11月末締め切りで「日本とモンゴルと私、50のストーリー」というテーマで100字から500字のミニエッセイを募集しています。作品は在モンゴル日本大使館公式HPにアップされ、最も「いいね」の多かった方にはプレゼントがあるとのことです。詳しくは<https://www.mn.emb-japan.go.jp/> (在モンゴル日本大使館公式HP)をご参照ください。

議案 2 令和 3 年度活動計算書報告資料

令和2年度の会計財産目録と令和3年度の会計財産目録

科目	令和2年度	令和3年度
現金	55,980円	55,318円
貯蔵品（切手）	9,516円	2,011円
普通預金三菱UFJ銀行	8,536,929円	9,514,196円
普通預金 ゆうちょ銀行	1,738,747円	2,537,751円
普通預金 三井住友銀行	1,603,357円	1,603,369円
りそな銀行	0円	0円
郵便振替口座	3,676,914円	4,644,914円
合計	15,621,443円	18,357,559円

正味財産の増減および当期経常増減額はプラス2,736,116円でした。

	令和3年度事業計画金額	令和3年度事業報告金額
会費収入	300,000円	250,000円
寄付金収入	3,000,000円	3,708,618円
助成金等	0円	—
受取利息	0円	83円
雑収入	—	163円
小計	3,300,000円	3,958,864円
モンゴルでの物的サービスの受入	200,000円	—
日本での物的サービスの受入	150,000円	115,000円
物的サービスの受入合計	350,000円	115,000円
収入合計	3,650,000円	4,073,864円
現地で治療支援する活動	3,190,000円	—
日本で支援する活動	2,420,000円	224,836円
教育事業	200,000円	3,000円
来日治療支援事業	—	—
救急車輸送事業	1,200,000円	492,664円
日本で広報する活動	300,000円	274,395円
事業費合計	7,310,000円	994,895円
管理費合計	800,000円	342,853円
支出合計	8,110,000円	1,337,748円

令和3年度 事業別経費

令和3年3月1日から令和4年2月28日まで(施設等受入評価額含む)

事業	内容	日時	実施場所	従事者	受益者	支出額
国内 支援 事業	団体主催のオンライン カンファレンス (一部教育事業通信費按分含む)	2021.4.10～ 2022.1.30	東京・島根・広島 ・秋田・愛媛・ (ウランバートル)	50人	800人	1 4 2, 2 1 1 円
	日本からの中古救急車を モンゴルの病院へ寄贈する 事業実施にかかる業務	2021.3.1～ 2022.2.20	東京・島根・富山 ・広島・新潟	65人	600人	4 9 2, 6 6 4 円
	そのほかモンゴルでの治療を 支援する事業にかかる業務	2021.3.1～ 2022.2.28	東京・島根・広島 ・秋田・愛媛・ (ウランバートル)	40人	200人	4 6, 4 0 4 円
援 国 事 外 業 支	日本からの中古救急車を モンゴルの病院へ寄贈する 事業実施にかかる業務	2021.3.1～ 2022.2.20	ウランバートル ・	80人	600人	—
国内 広 報	活動開始20年記念オンライン イベント開催にかかる業務	2021.8.1～ 2021.11.20	東京・島根・広島 ・秋田・愛媛・ (ウランバートル)	50人	300人	3 9, 2 2 1 円
	広報向けの資料制作業務	2021.3.10～ 2022.2.25	東京	4人	50人	4 5, 7 6 5 円
	広報ツールの配布	2021.3.10～ 2022.2.25	東京	4人	300人	2 2 8, 6 3 0 円
現地	事業費総額					0円
国内	渡航治療事業 事業費総額					2 2 4, 8 3 6 円
国内	広報事業 事業費総額					2 7 4, 3 9 5 円
国内	救急車寄贈事業 事業費総額					4 9 2, 6 6 4 円
国内	教育事業 事業費総額					3, 0 0 0 円
	管理費総額					3 4 2, 8 5 3 円
合計						1, 3 3 7, 7 4 8 円

令和3年度 収入の内訳

会費	250,000円
寄付金	3,708,618円
受取助成金	0円
施設等評価益	115,000円
受取利息・雑益	246円
合計	4,073,864円

令和3年度 施設等受入評価益

施設等受入評価益とは、「無償又は著しく安い価格での施設の提供等物的サービス」のことです。以下の記載分はそのうち「客観的裏付けのある金額計算」されたものです。

なお、施設等受入評価益記載の寄付につきましては、原則、所得税・法人税控除の対象とはなりません。今後、所得税・法人税控除の対象としたい場合がありましたら、国税局に個別に相談いたしますのでお申し出ください。

提供者名	換算金額	内容
八代高砂浦五郎 様	55,000円	大相撲カレンダー50本
八代高砂浦五郎 様	30,000円	相撲番付600枚
千代翔馬 富士雄 様	30,000円	相撲番付600枚
日本国内 物的サービスの受入合計	115,000円	

令和3年度 使途等が制約された寄付金等の内訳

「使途等が制約された寄付金」とは、使い道について指定を受けた寄付金のことを指します。

今期の期初残高は¥1,603,350円でした。これはエドワーズライフサイエンス社（米国）から令和元年度に受け取ったモンゴル地方検診目的の助成金です。今期の残高は¥1,903,350円です。

救急車輸送はコロナ禍の影響による世界的コンテナ不足が理由で輸送手配に遅れが出ておりますが、今期中には輸送できる見通しです。

ご寄付者名	金額	内容
外山産業株式会社 様	300,000円	モンゴルへの救急車輸送費用目的
株式会社エムティサービス 様	490,000円	モンゴルへの救急車輸送費用目的
エドワーズライフサイエンス社 様	1,603,350円	モンゴル地方検診費用目的
合計	1,903,350円	

令和4年度事業計画

新型コロナウイルスの収束が現実的になれば、時期を見て今期中にモンゴル国への渡航治療支援事業を再開いたしますが、現状では活動に参加する会員が、勤務する医療機関から海外出張許可を得ること自体が難しいと予想されるため、来期もオンラインを中心とした活動を重点的に実施する予定です。ただ、活動予算としては令和4年度中に10名（地方検診班5名、カテ班5名）の渡航活動を実施すると仮定した予算となっております。

来期のオンライン学会の予定は2022年5月26日（火）（テーマはファロー）、2022年9月22日（木）（テーマは麻酔）、2023年1月3週目メド（テーマは追って決定）、それぞれ開始時刻は午後19時（日本時間）、幹事は富田英理事長、檜垣高史副理事長、モンゴル国立母子保健センターのボロルマー院長です。会議の言語は英語ですが、事前の希望により日本語・モンゴル語間の通訳も可能です。

また上記とは別に月に一度オンラインカンファレンスを少人数で実施することも予定しております。こちらの開催日時は毎月第三金曜日、日本時間19時開始、90分間で行います。オンライン会議の増加を見越して通信費を前年度より大幅に増加して見積もっております。

教育事業としては、日本で行われる小児循環器学会（7月、1月）および小児循環器医学会（1月）へモンゴル母子保健センターからの参加・発表をサポートする予定です。こちらは実際に招聘できるかオンライン参加になるか未定ですが、来日することを前提に予算を組んでおります。

救急車輸送事業については、広島県からモンゴルへ寄贈される救急車が2台あります。現在、世界中でコンテナ不足の状況にあるため、なかなか輸送時期が決まりませんが、希望としては2022年5月～8月ぐらいには輸送を完了したいと考えております。寄贈先はドルノド県立中央病院附属保健所、ウヴルハンガイ県グチン・ウス村保健センターの2カ所です。

2022年度 ハートセービングプロジェクト おもな予定表

3月18日	第三金曜日、日本時間19時から日本モンゴルオンライン症例検討会開始 (毎月開催予定)
4月10日	午後2時からハートセービングプロジェクトの社員総会をオンラインで開催
5月26日	日本国内・モンゴルをオンラインで繋いで「オンライン学会」を開催
7月21～23日	日本小児循環器学会（札幌）にモンゴル医師の参加をバックアップ
9月22日	日本国内・モンゴルをオンラインで繋いで「オンライン学会」を開催
1月3週目	日本国内・モンゴルをオンラインで繋いで「オンライン学会」を開催
1月13～15日	日本成人先天性心疾患学会（愛媛）にモンゴル医師の参加をバックアップ
1月19～21日	日本先天性心疾患インターベンション学会（東京）にモンゴル医師の参加をバックアップ
2月	期末決算
4月	理事の選任

令和4年度活動予算

令和3年度 繰越額		18,357,559円
令和4年度 会費収入見込額		30万円
令和4年度 寄附金見込額（国内）		350万円
令和4年度 物的サービス等受入見込額（国内）		15万円
令和4年度 物的サービス等受入見込額（現地）		10万円
令和4年度 収入見込額合計		405万円
国内支援事業	(1) モンゴル地方検診・カテーテル班 エアチケットを含む交通費 渡航人員のべ10人	110万円
	(2) 国際通信	24万円
	(3) 消耗品・事務用品ほか	20万円
現地支援事業 （モンゴル）	(1) 現地での物的サービス（バヤンゴルホテル宿泊）	12万円
	(2) 地方検診 宿泊・交通費	20万円
	(3) モンゴル国立母子保健センターでの治療活動で 使用するデバイスにかかる費用	80万円
	(4) 現地ボランティア日当	3万円
	(5) 医師免許取得等事務手数料および関税	5万円
	(6) 車両関係費（ガソリン代・レンタカー費用）	6万円
	(7) 出張旅費（食費・水等）	12万円
	(8) その他（通信費ほか）	3万円
教育事業	(1) 国際通信	2万円
	(2) 消耗品・事務用品ほか	1万円
	(3) 日本で開催される学会へのモンゴル医師参加サポート	70万円
広報事業	ホームページ管理費・印刷物の作成・郵送料など	40万円
救急車輸送事業	救急車の輸送費	120万円
管理費	令和3年同様の内容として	70万円
令和4年度 支出見込額合計		598万円
次期繰越予定額		16,427,559円

みなさまへの大切なご連絡です
昨年メールアドレスが変わりました

〒154-0002 東京都世田谷区下馬1-29-5 ウィンヒル下馬102

電話番号 03-3487-9006

ファックス 03-3487-6024

メールアドレス npo@heartsavingproject.com